

スウェーデン 環境ニュース

2001年 12月号 ページ1 / 3

夢の「バイオエネルギー・ コンビナート」

森林資源が豊かなスウェーデンには、自動車やバスの化石燃料をバイオ燃料で代替するという夢を実現しようと取り組む人々がいます。木質資源から代替燃料のエタノールを作ることは可能ですがコストが高つくまいます。そこで、エタノール燃料の導入を進める「バイオアルコール燃料財団」

(BioAlcohol Fuel Foundation = BAFF) は、エタノール生産を暖房熱の供給など他の機能と組み合わせ、「バイオエネルギー・コンビナート」で効率よく生産する計画を推進しています。これにより燃料市場で競争可能な程度にコストが下がる可能性があります。この「バイオエネルギー・コンビナート」は、自治体所有のエネルギー施設に、エタノール生産を追加したものです。産業用と住宅用の電力、住宅用の熱あるいは暖房用のペレット、そして市バス・トラック・自動車用のエタノール燃料を同時に供給することです。

セルロースからエタノール生産 パイロットプラント建設決定

上記のコンビナートを実用可能とさせる前に、セルロースからエタノールを作る技術を実証する必要があります。エネルギー庁は12月5日、エーンシェルドスヴィーク (Örnsköldsvik) 市にパイロットプラントを建設するプロジェクトに対し、1億1200万クローネ (約13億4400万円) の補助を決定しました。投資総額1億4840万クローネ (約17億8080万円) の約75%に相当します。同市は北方地方の森林が多いバルト海岸に位置しています。プラントは研究目的のみで、三つの大学が共同出資する会社に所有される予定です。政府はこのプロジェクトに、温暖化防止政策の一環として期待しています。5ヵ年プロジェクトで2002年1月着工、運転開

始は2003年半ばの予定です。

同プロジェクトの長期的な目標は1リットル3クローネ (約36円) のエタノールを生産することです。エタノール燃料は、96年の炭素税とエネルギー税引き下げにより税制面で期限付きではありますが優遇されてきました。ガソリン価格は通常70%が税金ですが、ガソリン15%とエタノール85%を混合したE85という燃料の場合、税金は30%だけです。この臨時措置は今年の11月に、2002年末まで延長されることが決まりました。政府は2003年1月から新たな優遇措置を導入する予定で、これによりエタノール燃料はスウェーデン国内において通常ガソリンと競争可能な価格になる見通しです。

購入者の依頼で エタノールとガソリンの ハイブリッド車生産

エタノールとガソリンのハイブリッド車は、通常ガソリンでも、前述のエタノール85%含有のE85燃料のどちらでも使える車です。FFV車とも呼ばれています。FFVは英語のFlexible Fuel Vehicle (燃料使用が柔軟な車) の略です。スウェーデンで初めて登場したのは、94年にアメリカから輸入された3台です。当時既に全国的な関心を集めたので、95年には各自治体で50台を試験的に導入するプロジェクトが開始され、ガソリンスタンド経営のオーコー (OK) 社が、エタノールスタンド設置に踏み切りました。97年から98年にかけてさらに300台が輸入され、エタノールスタンド設置も約40台に達しました。これらの良好な結果を受け、政府の環境技術委員会はFFV車の購入希望車を募り、フォード社に4,000台のFFV車を発注しました。まとめて購入したことにより、価格を低く抑えることができました。発注の「Ford Focus FFV」1台目は、今年11月21日に購入者に引き渡され、残りは来年中に届けられる予定です。

エタノール使用の市バスも各地で合計約410台まで導入されています。ストックホルム市の市バス会社は250台使用し、普及が進んでいます。

現在のエタノール使用車およびバスは、輸入された廃棄処分後のワインや国産の小麦などを原料にしたエタノールで走っています。

(BAFFニュースレター2001/12/1、
www.baff.nu、エネルギー庁プレスリリース
01/12/6、その他)

つづく

スウェーデン環境ニュース

2001年 12月号 ページ2 / 3

1ページからつづく

ヘスレホルム市に 貨物「飛行船」場？

スウェーデン南部のヘスレホルム（Hässleholm）市に、貨物運搬用「飛行船」の発着場建設計画が浮上してきました。計画を検討しているのは、ドイツの貨物飛行船メーカー、カーゴリフター（CargoLifter）社です。同社は2003年もしくは2004年から、巨大飛行船を利用した貨物運搬業を開始する予定です。北欧市場を開拓するため駐船地が必要で、その候補地にヘスレホルム市が挙がったのです。同市はこの珍しい企画を歓迎し、飛行船停泊場に適した土地探しに協力しています。通常飛行機の飛行場と違い、滑走路を必要としないため800メートル四方の土地で十分です。飛行船は着地せず、発着場となる壁のないユニークな構造の建造物に空中停泊し、貨物を積み下ろしする仕組みです。

カーゴリフター社は、1996年設立・従業員491人のフランクフルト株式取引市場株式会社です。今年10月、直径61メートルの試作機を初めて離陸させ、24トンの貨物が輸送可能なことを実証しました。今回同社が計画している本格的な商業飛行船は直径65メートル、全長260メートルの巨大なものです。160トンの貨物輸送が可能となる計画です。2005年から貨物飛行船の連続生産を開始し、年に4隻を製造する予定です。輸送対象は発電所のタービンなど、大型貨物です。これらの貨物は、その大きさのため通常は一旦解体して輸送し、また組み立てるためコストがかかります。しかし飛行船で運ぶと、解体せずに丸ごと運ぶことができるので経済効率が良くなります。

同社は世界各地の運搬会社と既に契約を済ませており、日本でも11月21日、国内最大手の日本郵船株式会社と販売契約を結びました。日本郵船は、国内だけではなくアジア市場も狙いに入れています。既に2000年5月からカーゴリフター社の株主となっています。

約60年前に爆発事故を起し、飛行船の発展に待ったをかけた「ヒンデンブルク号」は水素ガスを

使っていました。しかし同社の飛行船は不燃性のヘリウムガスを使用しており、一時ストップした飛行船の発展を大きく前進させる可能性があります。

（Miljöeko誌2001年5号、
<http://www.cargolifter.com>、その他）

海外ツアー大手 リゾートホテルのエコラベル導入

北欧では99年秋以来、エコマークを頼りに環境に配慮したホテルを選ぶことができるようになっていきます。北欧共通の公式エコマーク「白鳥マーク」のホテル認定制度があるからです。しかし、スウェーデン国内の旅行会社が提携している海外のリゾートホテルの場合、「白鳥マーク」認定は不可能です。EUでは、EU内共通のエコマーク「花マーク」のホテル認定基準の準備作業が進められていますが難航しています。このため、スウェーデンのマイトラベル

（MyTravel）社（先月まではスカディナビアン・リージャー・グループ= Scandinavian Leisure Group = SLG）は独自の取り組みを開始しました。

マイトラベル社の考えでは、旅行先の環境破壊が環境意識の高い顧客の目にとまると悪印象が残り、ツアー全体のイメージが悪くなる恐れがあります。同社は環境を守る努力をしてその努力を顧客に見えるかたちにしたほうがビジネスに有利であると判断しています。同社は北欧最大手の旅行販売グループで、年間約250万人の旅行者が利用します。40カ国、200地への旅行を企画・販売しています。

来年2002年夏の旅行カタログでは、同社の10カ所の旅行先、約100軒のホテルに、アジサイの葉がモチーフのエコマークが付けられています。環境配慮の取り組み状況により、このエコマークは1つから3つまで付きます。アジサイの葉が1つの場合、そのホテルは環境ポリシーを採択して、これから取り組む予定であるという意味です。2つ葉のホテルは、マイトラベル社による18アイテムの環境対策契約に署名し、同社が提案している50段階の対策プログラムにそった取り組みを行なっていることを表します。この対策プログラムは、宿泊客に見えるところに掲示しなければならないことになっています。そして3つの葉のホテルは、マイトラベル社による100段階の対策プログラムを実施していること、北欧の「白鳥マーク」のホテル認定基準に相当する目標を達成していること、を表しています。3つの葉がつけられているホテルは現

つづく

スウェーデン環境ニュース

2001年 12月号 ページ3 / 3

2ページからつづく

在8つです。同社は約2,500のホテルと提携しているので、まだほんの一握りにすぎません。

同社は、滞在先の環境情報についてもホームページなどで顧客に提供しています。例えばタイのプーケット島について次のように説明しています：「タイ国王は環境意識が高く、自分の誕生日に、国民に砂浜を掃除するよう呼び掛けています。」「電力のほとんどは大陸のスラー・ターニ（Surat Thani）にある水力発電所から供給されているが、プーケット島には風力と太陽エネルギーを活用する設備もあります。」「リサイクルはありません。未分別ゴミはエネルギー回収なしに焼却されています。」などです。また、同社は、旅行先の環境保護に協力する方法も提案しています。

（Miljöeko誌2001年5号、マイトラベル社のホームページ、その他）

エコツアーを再開します

エコツアーはしばらくお休みしていましたが、2002年はエーサム（Esam）社との共同企画が実現しそうです。同社はエコ自治体向けの環境教育事業を展開してきた会社で、エコ自治体のネットワークや先端事業の情報を豊富に有しています。同社による「サステイナブル・スウェーデン・ツアー」2回はいずれも好評でしたが、内容が英語のため日本人にとって参加しにくいものでした。今回は、日本人向けの通訳付きツアーを企画しています。同社設立者のトルビョーン・ラーティ（Torbjörn Lahti）氏が今年来日したこともあり、日本からの視察受け入れに非常に前向きです。

企画の打ち合わせが開始されたところなので、まだ詳細は決定していませんが、購読者の皆さんには早めにお知らせしたいと思っています。視察内容に関するご希望に応じることが可能な段階ですので、ご意見ご提案をどしどしお寄せ下さい。現時点でのあらまは以下の通りです：

仮名：「持続可能なスウェーデン・ツアー」

企画・アレンジ：エーサム社 + レーナ・リンダール
日程：2002年5月25日（土）～6月1日（土）頃
集合：現地集合 定員：未定。限定なし
視察地域：主にスウェーデン北方地方
視察内容：持続可能な社会づくり（国・地域・企業）
宿泊：ホテル
参加費：未定。視察内容、人数による
言語：日本語。通訳：レーナ・リンダール

上記日程でご関心のある方はご一報ください：
VZQ11450@nifty.ne.jp、Fax：03-3422-7019
（参考）エーサム社、エーサム社企画の旅行について：
<http://www.esam.se>（英文有り）
<http://www.sustainablesweden.org/>（英文）

創刊から5年

「スウェーデン環境ニュース」創刊号発行からはや5年がたちました。変わらずご愛顧くださっている購読者の皆様に大変感謝しております。

購読開始は一年のどの月からでも可能ですが、1月を購読開始月とされている方が多いので、今月号に購読料振り込み先を掲載させていただきます。

- 1) 郵便貯金口座 10120-52775631
口座名：スウェーデン環境ニュース
代表 リンダール・レーナ
- 2) あさひ銀行三軒茶屋支店
普通預金口座：1034307
口座名：スウェーデン環境ニュース
代表 リンダール・レーナ

購読料：1年間5,000円

会員管理担当からも連絡差し上げますが、何分手作業であり、膨大な処理数のため、御自身の支払い時期をお知りになりたい方、あるいは未払い分のお心当たりがある方等は、大変お手数ですがご一報頂けましたら幸いです。（naomi@passagen.se / Fax：03-3422-7019（土屋宛））。なお、御連絡先の変更、御購読中止、請求書発行の希望などもご連絡頂けますようよろしくお願い申し上げます。なお、PDFファイルでの電子メール購読は好評です。切り替えてみたい方にいつでも見本をお送り致します。これからも未永いご支持をよろしくお願い申し上げます。

良いお年をお迎えください。 レーナ・リンダール